

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	わくわくステップ		
○保護者評価実施期間	令和7年2月3日		～ 令和7年2月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和7年2月3日		～ 令和7年2月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童福祉分野において経験豊かな職員が多く、また保育士や社会福祉士など資格所有職員が大半を占めているおり、また年齢層も各世代の職員を配置しているため多角的な視点でサービス提供することができる。	一人ひとりの利用児の強みや課題を、様々な職種の視点から支援方法を検討して実施している。	挙げられた課題を保護者や関係機関で情報共有し、共通した支援を提供することができるようにしている。
2	法人のスケールメリットを生かし、管理栄養士による食育支援、就労支援事業所での就労支援員による卒後の進路支援を実施している。	定期で管理栄養士との会議を開催し、講座や保護者様向けの企画などを実施。管理栄養士が所属する多機能型事業所の敷地内で家庭菜園を展開し、食育支援に強みを持つ。また就労支援事業所でのお仕事体験を実施。	本格的な食育支援の初年度ということもあり、集団活動でのプログラム提供に留まったが、今後は個別支援も念頭に置き実施する。 その人らしく将来を自己選択・決定するために様々なことにチャレンジできる機会を増やし、技能開発や自己肯定感が高まる仕掛けを実施する。
3	事業所所在区の障害者基幹相談支援センターの運営を当法人で受託しており、緊密な連携が可能であるため質の高いサービスを提供することができる。	相互的な情報共有、チーム支援を念頭に取り組んでいる。	自立支援協議会ははじめ研修や講演会に積極的に参加し、知り得た情報は迅速に伝達していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学校連携に十分な時間を確保できず、課題が発生しない限りは送迎時での日常的な情報共有にとどまっている。	学校連携を図りやすい放課後にあわせて訪れる事業所のピークタイムにプラスアルファの人員確保が困難である。	送迎サービスの提供方法などをアウトソーシングしたり、事業所間連携など工夫することで一定の改善が図れると認識する。
2	地域とのつながりが少ない。	コロナ禍の影響から近隣の公園で活動したり地域清掃をするにとどまり、地域に開放した行事などの開催が少ない。	積極的に地域へ赴くプログラムや来所していただける企画を考案し、地域との連携を深める事業運営に努めます。
3			